

お客様各位

## OpenSSLメモリ情報暴露の脆弱性(CVE-2014-0160)による Oracle Solarisへの影響について

2014年4月17日  
富士通株式会社

平素は、富士通製品をご愛顧いただきまして、誠にありがとうございます。  
OpenSSL Project が提供する OpenSSL には、リモートから情報を参照される脆弱性(CVE-2014-0160)が存在します。

本脆弱性によるOracle Solarisへの影響についてご報告します。

### 1. 本脆弱性の概要

OpenSSL Project が提供する OpenSSL には、リモートから情報を参照される脆弱性が存在します。その結果、遠隔の第三者によって、秘密鍵などの重要な情報を取得される可能性があります。

以下のバージョンが本脆弱性の影響を受けます。

- OpenSSL 1.0.1 から 1.0.1f
- OpenSSL 1.0.2-beta から 1.0.2-beta1

脆弱性についての詳細は、「3. 参考情報」をご参照ください。

### 2. Oracle Solaris への影響について

Oracle Solaris は本脆弱性が存在する OpenSSL のバージョンを含んでおりません。このため、Oracle Solaris は全ての OS バージョンで、本脆弱性の影響を受けません。オラクル・コーポレーションから公開されている以下のページをご参照ください。

- [OpenSSL Security Bug - Heartbleed CVE-2014-0160](#) (英文)

### 3. 参考情報

- [CVE-2014-0160 \(英文\) \(CVE\)](#)
- [OpenSSL の脆弱性に関する注意喚起 \(和文\) \(JP/CERT\)](#)
- [OpenSSL の heartbeat 拡張に情報漏えいの脆弱性 \(和文\) \(JVN\)](#)
- [OpenSSL の脆弱性対策について \(和文\) \(IPA\)](#)

---

富士通株式会社 SPARC Serversに関するお問い合わせ

- Webでのお問い合わせ: <http://jp.fujitsu.com/sparc/>
- お電話でのお問い合わせ: 富士通コンタクトライン 0120-933-200  
受付時間 9時～17時30分(土曜・日曜・祝日・当社指定の休業日を除く)